荘島小学校だより　第 18 号　令和 5 年 1 月 12 日

わだつみ

久留米市立荘島小学校　校長

成長を見つめ、自覚を持たせる！

あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては希望に満ちた新年をお迎えのことと存じます。日頃より荘島小学校の教育を温かく見守りご協力いただいたことに深く感謝しております。本年も皆様と共に児童の健全育成に向け、教職員一同心を一つにして荘島小の子どもによい経験をさせるべく頑張ってまいります。

三学期は最も短い学期ですが、学年の締めくくりとして大切な学期です。１年生は入学当初の１年生ではなく、限りなく２年生に近い１年生であり、６年生は限りなく中学生に近いのです。児童一人ひとりに自己の確かな成長に目を向けさせ、荘島小学校の歴史の担い手として努力するよう指導していきたいと考えています。ご協力のほどよろしくお願いします。

上手に握れたね、ギュギュッと「おにぎりの日」

１１月３０日(水)、子どもたちはお家の人と一緒に、または自分だけの力で「オリジナルおにぎり」を握って登校しました。

おにぎりは弥生時代の遺跡（杉谷チャノバタケ遺跡）で米粒の塊が炭化したものが出土しており、この出土を記念して制定されたのが、「おにぎりの日６月18日」だそうです。「2000年近くも前から」と考えると、私たちの遺伝子の中に深く刻み込まれている食文化であるのではないかと感慨深いですね。

もう一つ、「おむすびの日11月17日」があります。これは阪神淡路大震災が起こった日で、ボランティアの方々が炊き出しで配布したの

がおむすびでした。こころをむすび、震災を忘れないために制定されたそうです。

食育の基本は家庭ですが、これからも学校では「食事の重要性」「心身の健康」「食品を選択する能力」「感謝の心」「社会性」「食文化」の６の視点で食育を進めていきます。次は２月。「お弁当の日」です。今後も、一緒に取り組んでいけたらと思っています。ご協力をお願いします。

しつけの三原則ー「はき物をそろえる、椅子を入れる」

哲学者で教育者でもあった故森信三氏は、しつけの三原則として①挨拶をする子にすること、②「はい」とはっきり返事のできる子にすること、③はき物を脱いだら、必ずそろえ、席を立ったら必ず椅子を入れる子にすることを挙げています。

３学期「席を立ったら必ず椅子を入れる」ことをがんばりましょうと伝えています。帰りの会後、椅子を入れず教室を出ても、何も問題はありません。体育の学習の時、椅子を入れずに運動場に行っても、何も問題はありません。椅子を入れずに少人数教室から自分の教室に戻っても、何も問題はありません。特別教室を使ったら使いっぱなし。椅子も出しっぱなし。何も問題はない。そう、問題はないです。しかし、この考え・行動に、違和感を感じる保護者も多いのではないでしょうか。それは、この考え方・行動に他者意識（自分の行動が他者にどのような影響を与えるかを客観的に気付くことができる視点）がないからだと思います。他者意識をもつこと。これは他者への配慮であり、思いやりの原点であるような気がします。

また、使った椅子をいれず教室を出れば、教室の横を通り過ぎる人の印象は決して良いものではありません。友達の家に行って椅子も入れずに帰っては、恥をかくのはその子自身となります。

「しつけ」という漢字は「躾」。分解すると、「身が美しい」と書きます。この漢字は、中国にはないのだそうです。「身が美しい」と書いて「しつけ」と読ませるというのは、日本人の発明なのだそうです。美しいふるまいを身に付ける。それは、生き方を正しくし、精神を鍛えることに通じていくのだと思います。「椅子を入れる」これは教えないと育ちません。ご家庭でも、機会を通じ教えていっていただければと思います。